

うな牝系には突然競走能力に有意な変異が入ったのではないかなどと思ってしまう。

例えば、2019年の凱旋門賞を勝った5-h族のWaldgeistの牝系（頁は5-h-1の左側）は近年、周囲の枝葉はまったく伸びていないのに、突然G I馬を数多く出し始めていることから、その4代母のWurfbahnあたりの遺伝子に何かがあったのか？……などについて想像してしまうのです。

ちなみに、ドイツでは馬名は母親と同じ頭文字にするルールがあり、Waldgeistの母系には「W」から始まる名前が並んでいるのは壮観です。ドイツの生産界が頑固なまでに自らの血、つまり自らの牝系の優秀さを信じて、淘汰することなく守り続けた結果でしょうか。なにか見習うべきことがあります。

また、18号族のLava Goldという1994年生まれの米国産の牝馬の系統も繁栄がなかったものの（頁は18-1）、突如この馬はアルゼンチンで3頭のG I馬を産んでしまったのです。

その他、以下も同様の例かもしれません。

- ・1-c族のSail the Wind（頁は1-c-1の左側）
- ・2-j族のMonroe Magic（頁は2-j-1）
- ・2-n族のBiala（頁は2-n-1の左側）
- ・3-e族のLaura Ricci（頁は3-e-1の左側）
- ・3-l族のトキオリアリティー（頁は3-l-1の左側。お馴染みの名前が並びます）
- ・3-m族のBrava（頁は3-m-1の右側）
- ・3-n族のProspective Joy（頁は3-n-2の左側）
- ・4-i族のSenta's Dream（頁は4-i-1の左側）
- ・4-p族のAbove Perfection（頁は4-p-2）
- ・12-b族のSichilla（頁は12-b-1。なお、Sichillaの半兄にはパリ大賞典等のG Iを4勝のSlicklyがいます）
- ・12-d族のUff-Uff（頁は12-d-1の左側）
- ・12-g族のClassy Twiggy（頁は12-g-1の左側）
- ・16-h族のQuanto Carina（頁は16-h-3の左側）
- ・19-b族のMiss Hot Salsa（頁は19-b-1の右側）
- ・20-d族のRound Pond（頁は20-d-1の左側。なお、Round Pondのおじには日本に種牡馬として輸入されたG Iを4勝のナスルエルアラブ、英2000ギニー等のG Iを3勝のPennekamp、愛2000ギニー等のG Iを2勝のBlack Minnalousheがいます）
- ・22-b族のMyrrh（頁は22-b-1の左側）
- ・28号族のSacarina（頁は28-1）

最後に挙げた1992年生まれのSacarinaは、1997年に産んだSamumが独ダービーおよびバーデン大賞を勝ち、1999年に産んだSalve Reginaは独オークス（ディアナ賞）を勝っており、この2頭も樹形図にあれば、28号族の当該箇所はさらなる大輪を突然に咲かせたような感じになったでしょう。

以上のようなことから、もし自分が生産者で新たな繁殖牝馬の導入に動く場合、長く垂直にラインが伸びている系統の牝馬、あるいは、いままではほとんど活躍馬を出していなかったものの、突如活躍馬を集中的に出すようになった系統の牝馬に手を出したくなるでしょう。

1.11 違う種牡馬を相手に複数のG I馬を産む牝馬の多さ

先述のUrban Seaは4頭のG I馬を産んでおり、GalileoとBlack Sam Bellamyの父はSadler's Wells、My Typhoonの父はGiant's Causeway、Sea the Starsの父はCape Crossと交配種牡馬も多様です。

他にUrban Seaは、G III馬のUrban Ocean（父Bering）、愛オークス2着および英オークス3